

# おごせ 教育 Pick Up



## 越生小学校

9月28日・29日に、6年生が梅園小学校と一緒に修学旅行に行ってきました。1日目は鎌倉で班行動、夜はホテルでテーブルマナー、2日目は江の島で水族館やタワーに登りました。

## 梅園小学校

6年生が修学旅行に行ってきました。市内を案内してくれた観光ガイドの方が、「こんな素晴らしい小学生は今まで見たことがない」と言われるくらい、人に頼ることなく自分たちの力で行動しました。楽しい思い出ができました。



## おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子どもたちを写真で紹介するコーナーです。

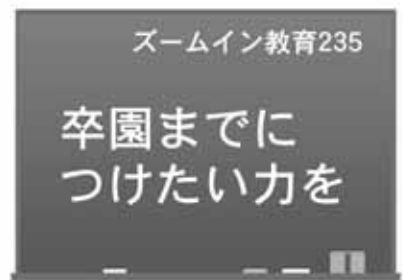


## 越生中学校

10月6日、2年生が完成したばかりのランチルームで上級学校調べの発表会を行い、各班とも高校の特色をわかりやすく模造紙にまとめ発表しました。来年は自分の目で確かめて、自分の意志で進路を決定していきます。

その中の一つに、鉄棒があります。鉄棒は小さいときからの積み重ねが必要です。年長さんで逆上がりができるようになるためには、1歳児で「豚の丸焼き」ができ、2歳児で「足抜き」ができ、3歳児で「前回り」を、4歳児で「しり上がり」、そして5歳児で「逆上がり」とつながってきます。このように何事もいきなり何かができるようにするのはなく、導入をしっかりと

山吹保育園では、各学年にいろいろな課題を設定しています。それはお子さんにつけてほしい力として歴代の当園で働く先生たちが考えながら構築してきたものです。



山吹保育園



一つ一つの課題に子どもの健やかな成長を願って時には叱咤激励しながらの毎日ですが、小学校へスムーズに進学できるようにこれからも努力していきますので応援よろしくお願ひします。

行ってやっとならぬように、日々の保育に取り組んでいます。もちろん、子ども達には楽しくできる工夫することも忘れません。

# 越生浪漫

No.94

おごせ100ポイント

平成26年度から3か年計画で進めてきた解説板整備も最終年度を迎えました。町民のみなさんのご理解を得て、これまで計66か所の解説板・標柱を設置することができ、町を訪れるハイカーが熱心に解説板を覗いている姿を見かける機会も増えてきました。そこで訪れた方に越生の魅力をより知ってもらうため、また越生に住んでいるみなさんに越生の良いところを再々発見してもらうため、今年はおごせ100ポイント標柱の立替事業を実施することとしました。

町内に立つ木製の100ポイント標柱は、平成元年（1989）に町制施行100周年記念事業の一環として建てられました。各ポイントは地区ごとに越生を自慢できるもの、誇るべき越生の魅力を再発見するための100ポイントとして選定されたものです。各ポイントは郷土の歴史や伝統、文化・自然など多様な観点から選ばれており、他に類をみない町おこし事業として注目を集めました。

しかし、建てられてから30年近く経過したため、木柱が腐朽したために撤去されてしまったものや、木割が生じてヒビが入っているものもあります。また、黒山の「80渋沢平九郎自決の地」のように、水害で流されたのか行方不明となり、越辺川を70キロ流れて下流の東京都足立区の荒川まで流れ着いた数奇な運命を辿った標柱もあります。

標柱の立替は、昨年度までに建てた解説板と同様に、花崗岩による石製の標柱で実施します。また、石柱の乱立を避け、説明が重複しないように、看板や解説板が既設の箇所は、ステンレスプレートに貼り付けなどを検討しています。加えて、景観にそぐわないものは場所を移動するなど、の検討をしています。ご理解とご協力をお願いします。



建替後の石柱（写真は太田道真退隠地（小杉））



現在のおごせ100ポイント標柱「38 六地藏（大谷）」



キタキチヨウは越生町で普通に見られる蝶です。成虫で越冬するため、その姿は一年中見ることができません。雌雄の区別は簡単で、鮮やかな黄色の個体は雄、淡い黄色の個体は雌です。晩春から夏に羽化する個体は翅の外側の黒い斑紋が大きく、秋に羽化した冬する個体は翅の黒い斑紋がほとんどありません◆キタキチヨウは従来、キチヨウという名で呼ばれていましたが、比較的最近、本州から南西諸島まで広く分布するキタキチヨウと、日本では南西諸島だけに分布するキチヨウの二種に分けられました◆本種の幼虫はネムノキなどのマメ科植物の葉を食べます。「おごせ昆虫と自然の館」の庭にはフサアカシア（別名ミモザ）というオーストラリア原産の木

## おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.55

### キタキチヨウ

「チョウ目 シロチョウ科」



左上…キタキチヨウ成虫の夏型、左下…同秋型、右…同蛹

が5本植栽されています。このフサアカシアは夏から晩秋にかけても新しい枝が伸び、やわらかな葉が展開します。その新葉をキタキチヨウの幼虫は大好きで、毎年夏から秋にかけて多数の幼虫と蛹が見られます◆昨年の夏から秋にかけては、蛹の多くは成虫になりましたが、2割ほどの蛹はキアシフトコバチという蜂に寄生され、蜂の成虫が脱出した大きな穴が開いた蛹が見られました。今年の夏から秋にかけては、この寄生蜂の寄生率が高く、約8割の蛹から寄生蜂が脱出しました◆どのような生物も、自然界で生き抜くのは大変なことなのです。

（巣瀬 司）